

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 金・4	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生物の科学(基礎生物学、免疫学、細菌学、感染症学、熱帯医学、熱帯学及び保健対策) / Biological Science (Immunology, Infectious diseases, Tropical medicine and environment)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 自然科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:栗林 太 / Eメールアドレス: kurikuri@net.nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 熱研炎症細胞機構 / オフィスアワー: 金曜日 9:00-13:00()			
担当教員(オムニバス科目等)	栗林太、松山章子、森本浩之輔		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 生物学、免疫学、細菌学を学習した上で熱帯学の取り組みに関する知見を深めること。 授業方法: 講義形式 授業到達目標: 感染症、免疫のしくみを理解する。熱帯学に関して、自分の考えを持てるようにする。			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 高等学校の生物学を理解した上で、教養教育としての免疫学、細菌学等の講義を行う。更に、感染症学や熱帯地方特有の疾患・問題点とその対策について講義を行う。 栗林太担当 第1回(10/5): オリエンテーション 第2~4回(10/12, 19, 26): 一般生物学と免疫学 生体を構成しているさまざまな細胞がいかに協力し合って生体の恒常性を維持しているかについて解説する。また、生体防御における活性酸素の重要性について解説する。 第5, 6回(11/2, 9): 病原微生物学 細菌、ウイルス、寄生虫などの微生物のうち、ヒトの感染症に関わる微生物の生物学的特徴とその感染症に関して解説する。 第7回(11/16): 熱帯医学研究所博物館見学 松山章子先生担当 第8, 9回(11/30, 12/7) 医療人類学・質的研究と熱帯地の生活環境 熱帯地の自然、人々の生活、医療事情と国際機関の保健対策について解説する。 森本浩之輔先生担当 第10~13回(12/14, 21, 1/11, 25) 呼吸器感染症の基礎と熱帯医学の臨床 一般呼吸器感染症の基礎的概要から熱帯医学特有の臨床的知見までを解説する。また、講義の進捗状況を考慮した上で、旅行医学の解説を行うこともある。 栗林太担当 第14回(2/1): まとめ(講義中に頂いた質問の解答) 第15回(2/8): 定期試験			
キーワード	免疫、細菌、感染症、熱帯医学、熱帯、保健		
教科書・教材・参考書	指定図書なし。		
成績評価の方法・基準等	定期試験(100%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)	高等学校等において、生物学を修めていない受講生に対応予定		